

「見る」「見られる」による学修意欲の向上を目指した 学科を超えた工学系大規模実習スペースの創出

The Diamond



実習スペースはガラス越しに外部から活動の様子が見える

【ポイント】

お互いの活動に刺激を受ける空間

学科を超えた大規模な実習スペースを整備

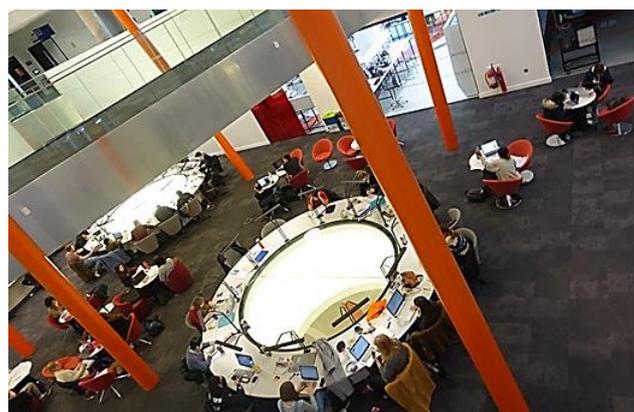
- 将来的な研究の基礎となる知識や技術を統一的に身につけるため、これまで別々に行われてきた学科共通の基礎的な実習を、複数学科合同で行えるよう、大規模な実習スペースを整備。
- 実践的な技術が身に付くよう、多様な実習スペースに企業が現場で用いる最新機材を導入し、約 40 人の技術スタッフがサポートを行う。



複数の学科が合同で実習できる大規模実習スペース

「見る」「見られる」ことによる 学修の相互作用の創出

- 実習スペースはオートロックで管理されているが、外から中の様子が見えるように実習スペースの仕切りはガラス壁となっている。
- 建物内には全学共用の学修スペースやレクチャーシアターも整備。工学部以外の学生や職員も利用できる。
- 地下 1 階と 1 階は地域開放エリアで、実習の様子が地域住民からも見られるようになっている。



周りを実習スペースに囲まれた建物中央部のフリー学修スペース

整備による効果

実践的スキルの習得

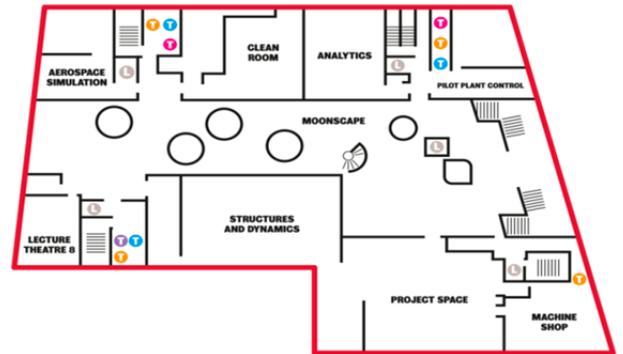
- 学部生が、The Diamond において、学科を超えた基礎実習や、PBL 活動を行うことで、異なる専門分野の人材と協力する際に求められる実践的スキルを習得できると期待される。

高い学生の満足度

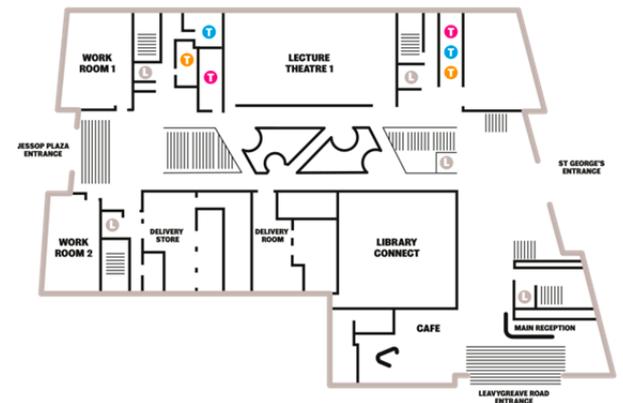
- 本学は全大学共通の学生の満足度調査で 2014-15 年の 1 位を獲得。学修スペースの充実が満足度維持・向上のために重要な要素の 1 つである。

学部間や地域との交流を促す

- The Diamond には工学部の学生だけでなく、他学部の学生や地域住民の利用できるスペースがあり、お互いの活動の様子に刺激をうけることができる。
- 地域開放スペース以外にも、会議室やレクチャーシアター等は企業のイベント等にも利用されている。



2階 実習スペースと学修スペースが近接している



1階 セキュリティゲートがなく地域に開放されている

整備の背景・目的

- 近年工学部学生の大幅な増員を行ったため、工学部エリアが狭隘化していた。また学部生が使える実習スペースが少ないことも課題であった。
- このため、工学部から学部エリアを抽出し、工学部の学部生を対象とした実習スペースと全学共用の学修スペースを工学部キャンパスと全学共通エリアの境目に計画し、2015年9月に開設した。



The Diamond 外観

通行人や隣接する教会からも実習スペースが見えるような設計

更なる展開

学際的な教育の推進拠点として

- 科学、アート、スポーツ、社会科学の分野で学際的な教育・研究を実施することを全学方針としている。
- The Diamond は学際的な教育のための学修スペースとしての学内先行事例であり、これまでの学内施設整備で最高の投資がなされた。
- The Diamond は、今後も大学の学際的な教育の取組を国内外に紹介するショーケースとしての役割を期待される。